

第363回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《プログラム》

日時：平成24年9月8日（土）午後15時00分
会場：ホテルニューオータニ長岡2階『柏の間』
長岡市台町2丁目8-35 0258-37-1111

次回 第364回新潟地方会予告
日時：平成24年12月8日（土）午後3時
会場：未定
演題申込期限：平成24年11月9日（金）

- ※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7分、討論3分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1-757
新潟大学医学部泌尿器科学教室内
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784
会長 高橋公太

1. 脈絡膜転移をきたした腎癌の1例

新潟大学腎泌尿器病態学分野¹⁾、視覚病態学分野²⁾

山口峻介¹⁾、笠原 隆¹⁾、原 昇¹⁾、新井 啓¹⁾、谷川俊貴¹⁾、高橋公太¹⁾、
尾山徳秀²⁾

症例は61歳男性。左眼の視力障害を主訴に当院眼科を初診し脈絡膜腫瘍を指摘された。その後、CTにて左腎腫瘍を指摘され転移性脈絡膜腫瘍が疑われた。まずは腹腔鏡下左腎部分切除術が施行された。その後スニチニブによる治療後に左眼球摘出術が施行された。現在、再発は認めていない。本症例の経過について若干の文献的考察を加えて報告する。

2. 生体腎移植後早期に発症した移植尿管結石の2例

新潟大学腎泌尿器病態学分野¹⁾、済生会新潟第二病院²⁾

黒木大生¹⁾、池田正博¹⁾、中川由紀¹⁾、齋藤和英¹⁾、高橋公太¹⁾、車田茂徳²⁾

腎移植後は免疫抑制剤の影響もあり尿管結石の発症率は7.4%と高い。今回腎移植後1年3ヶ月後と3ヶ月後の早期に尿管結石を発症した、2例の小児症例を経験したので報告する。

3. 陰茎折症に対し、Delayed operationを施行した1例

柏崎総合医療センター 山崎裕幸、羽入修吾

陰茎折症は陰茎海綿体白膜の断裂をきたす陰茎外傷であり、泌尿器科救急疾患の1つである。一般的に可及的早期に観血手術で開放し、断裂した白膜を縫合することで、陰茎湾曲、勃起障害等の後遺症のリスクを減らすといわれている。今回、陰茎折症を来たした65歳の男性に対し、約36時間後に待期的に整復術(Delayed operation)を行い、術後合併症なく経過した症例を経験した。陰茎折症、Delayed operationの適応等につき若干の考察を加え報告する。

4. 当院におけるアボルブカプセルの使用経験

新潟労災病院 泌尿器科 秋山さや香、羽場知己、小池 宏

当院では2010年10月よりアボルブカプセルを処方し始め、平成24年5月末日までに91例の患者に投与を行った。そのうち投与後評価可能であった86例につき、効果・副作用などの検討を行った。投薬開始時の平均年齢は73.8歳(57~87歳)で、全例他の薬剤と併用している。治療効果については、IPSSスコア、ウロフローメトリーなどをもとに評価した。また、PSA値の変動や前立腺体積の変化率についても検討した。

5. 尿膜管膿瘍膀胱穿破の一例

長岡赤十字病院 丸山 亮、白野侑子、米山健志、森下英夫

無症候性尿膜管膿瘍が膀胱穿破した症例を経験したので報告する。

80歳男性、前立腺肥大症にてフォーレ留置中、手術目的に紹介された。下腹部にmassあり、CTで長径9.5cmの内部にairを伴うlow density lesionあり、尿膜管膿瘍の診断となる。ドレナージ術を予定していたが、手術前に膿瘍が膀胱内に穿破し、フォーレ閉塞、UTIで入院となる。抗生剤で軽快後、開腹ドレナージ、尿膜管摘出術を順次施行した。

6. 尿管ステント留置が無効だった腎後性腎不全の2例

立川総合病院¹⁾、県立新発田病院²⁾、長岡赤十字病院³⁾

安楽 力¹⁾、田所 央¹⁾、上原 徹¹⁾、鈴木一也²⁾、米山健志³⁾、森下英夫³⁾

胃癌の腹膜播種による尿管閉塞から腎後性腎不全となった2例を経験した。いずれも尿管ステント留置は無効であり経皮的腎瘻造設によって腎機能の改善を認めた。尿管ステントの有効率、利点、欠点、ステント留置と腎瘻造設のどちらを選択するかなどの考察を加えて報告する。

7. 分子標的薬を含めた集学的治療を行った腎集合管癌の一例

新潟県立中央病院 泌尿器科 村山慎一郎、水澤隆樹、片桐明善

症例は62歳女性。2010年11月右腹痛にて近医受診。CTで右腎腫瘍・リンパ節転移を指摘され当科紹介初診。尿細胞診は尿路上皮癌疑いであった。腎盂癌を疑い術前化学療法の上、右腎尿管全摘除+リンパ節摘除術を施行した。病理組織は集合管癌であった。術後出現したリンパ節転移・頭蓋骨転移に対し分子標的薬投与・放射線療法を行い、放射線療法が有効であったと思われる一例を経験したので報告する。

8. 腎部分切除術症例におけるR. E. N. A. L. Nephrometry Scoreおよび

PADUA scoreの検討

新潟県立がんセンター新潟病院泌尿器科¹⁾、同病理部²⁾

小林和博¹⁾、信下智広¹⁾、斎藤俊弘¹⁾、北村康男¹⁾、川崎 隆²⁾

対象は2006年~2012年7月に術前腎細胞癌の診断で腎部分切除を試みた99名の腎腫瘍105個。R. E. N. A. L. Nephrometry Score (RNS) およびPADUA score (PS) は、平均 7.4 ± 1.7 (4-10)、 8.3 ± 1.2 (6-11)、complexity は、low 27, 27, moderate 67, 63, high 11, 15個。RNSでは手術時間、PSでは手術時間と出血量がhigh群において他の群より有意に高値であった。腎摘出を要した割合は、両scoreとも各complexity間に有意差を認めた。

9. TUR-Bt 後の BCG 膀胱注入療法により脾膿瘍を併発した 1 例

柏崎総合医療センター 泌尿器科 羽入修吾、山崎裕幸

63歳男性。排尿痛・残尿感で受診。膀胱がん(左側壁3cm)にてTUR-Bt。病理診断はUC, high grade, pT1。TUR4週後からBCG療法開始。2週毎にBCG 81mg/生食40ml 膀注30分間を8回施行。8回目の1週間後から38℃台の発熱と食欲不振が続いた。CTで脾膿瘍と診断。INH+ RFP 2剤では無効で、EB追加4日後から解熱した。

サテライトセミナー

日時：平成24年9月8日（土）

16時50分～17時50分

会場：ホテルニューオータニ長岡 2階『柏の間』

16：50～17：00

製品紹介

「排尿障害改善薬フリバス錠について」

旭化成ファーマ（株）学術担当者

17：00～17：50

座長 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野
教授 高橋 公太 先生

「ミトコンドリアオートファジーの分子機構と生理的意義」

新潟大学大学院医歯学総合研究科・バイオシグナリング研究室
テニュアトラック教授 神吉 智丈 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会
旭化成ファーマ株式会社

サテライトセミナー終了後、懇親会「2階 雪椿の間」となります。